

2015年2月12日
第6回知の市場年次大会

開講拠点 東京・茗荷谷

開講機関：化学工学会 SCE・Net

化学工学会 SCE・Net 中尾 眞

1. 機関の紹介と教育活動の趣旨

化学工学会 SCE・Net は化学工学会の中の産学連携センターに所属する常置委員会の一つで、企業で技術者あるいは経営者として活動してきたシニアエンジニアを主な構成員としている。シニアエンジニアの経験と知恵で社会に貢献することを目的に、コンサルティング、調査受託、資料作成、教育、著作執筆などを行っている。またこれらの活動を行うに当たっては自らの知識を絶えずアップデートする必要があるため、研究会活動を通して会員相互の研鑽と交流を深めている。活動の原資は学会からの補助と構成員からの会費によっている。

「知の市場」の開講機関、連携機関としての活動も、社会貢献活動の一環として行っている。特にシニアの経験や知識を現役世代の社会人に語り継いでいく活動は、シニアの自己発現につながる重要な活動であると認識して取り組んでいる。

ただ、ボランティアな活動とはいえ、公開講座を運営すると教室の借用料など諸掛が発生するので、それを受講料収入で賄っている。

2. 知の市場参加の経緯

2005～2008年の4年間、文部科学省の科学技術振興調整費を得て一般社会人向けに「化学・生物総合管理の再教育講座」が開講された。化学工学会 SCE・Net ではお茶の水大学と連携して化学技術の革新と社会・生活との関わりをテーマとした科目を編成し、企業での実務経験豊富なシニア技術者を講師として科目を提供してきた。

2009年3月には化学技術振興調整費による事業が終了し、化学・生物総合管理の再教育講座は、「知の市場」として発展的に継承されることとなった。

SCE・Net が知の市場の枠組みの中で講座を開講するかについては SCE・Net 内部で議論が成されたが、シニア技術者が自らの体験に裏付けられた講義を行うことで現役世代の社会人に情報発信することは SCE・Net の重要な役割の一つであり、公開講座を継続することが大切であると認識し、知の市場の枠組みの中で自ら開講機関として開講することとなった。

それ以降、2014年度までの6年間、2科目から6科目を開講して今日に至っている。

3. 2015年度の開講科目内容及び目標と課題、開講拠点の紹介

(1) 2015年度の開講科目内容；次の2科目を開講すべく準備中で、いずれも継続である。

・VT465a「原子力・放射能基礎論-原子力と放射能の基礎から応用までを学ぶ」；2部構成、12講義からなる。原発事故に伴う様々な問題を理解し判断するために、事故後の経過や原子力をめぐる情勢を考慮して、正確な知識と情報を体系的に提供する。

・VT523c「化学工業特論-ケミカルズが産み出す日本の力」；2部構成、15講義からなる。化学産業が生み出すケミカルズの技術内容、社会への影響、今後の発展などについて、シニアエンジニアが自らの体験にもとづいて論じる。化学工業及びケミカルズについて取り上げる科目は他に例はなく、6年間での継続により完成度を高めてきたと確信している。

なお、2009年度から5年間開講した科目「環境特論」、2012年度から2年間開講した科目「エネルギーシステム論」は今年度の開講を見送ることにした。

(2) 目標と課題；SCE・Netが提供する科目は、長く継続していることもあって、受講者が減少する傾向にある。受講者が少ないと講師や講座運営者の意欲阻喪につながると共に、収入が減り、運営面でも苦しくなる。受講者の増加・確保が課題である。

受講者の関心を高める施策として、昨年、グループ受講(共通項で纏めたグループごとの受講)を導入した。原子力では、分割受講を選択するものは少なかったが、後期の環境、化学工業では受講者の25%程度が分割受講を選択した。科目の性格によるが、ある程度は受講者の便宜性向上に役立ったのではないかと考えているが、ただ全体の受講者増にはほとんど寄与しなかった。それでも分割受講を認めない場合に比べて、減り方の程度が少なくなったのではないと思われるので、2015年度も分割受講を認めて開講することとしたい。

従来から講義テーマの見直しや講師の入れ替えなどに努めて来たが、今年度は科目「原子力・放射能」を改編して魅力を高めることとした。

受講料は1講義当たり500円を基本に、15講義の「化学工業特論」では7,000円、12講義の「原子力・放射能」では6,000円に設定した。

化学工業特論は化学工業全般を理解できるので、中学校の理科の先生や、企業の新入社員を、対象にする教育にも有効であると考えており、このような分野の受講者を増やすべく、広報活動を進めたいと考えている。

(3) 開講拠点の紹介；SCE・Netの公開講座は全てお茶の水女子大学の教室で、土曜日に開講している。受講者の利便性から、都心のお茶の水女子大学で開講することにする。

以上